

# 9月10日は下水道の日です！

## ～下水道の役割としくみ～

下水道は、生活環境の改善、公共用水域の水質保全を図るため、最も基本的な施設です。特に、経済活動の進展や、生活様式の質的向上によって水の需要量は増え続けており、こうして使われた水をそのまま海に流すことは、私たちの生活環境をおびやかすことになります。海などの自然界の“水の循環”の中で私たちが使って汚した水をきれいにして、再び自然に戻す下水道の役割は非常に大きいといえます。



## ～上島町の汚水処理状況～

(平成18年3月31日現在)

行政人口 (A)	事業種別	計画人口 (B)	整備済人口 (C)	接続人口 (D)	普及率 (C/B)	水洗化率 (D/C)
8,358人	公共下水道区域	7,700人	5,580人	3,146人	72.5%	56.4%
	農業集落排水区域	1,470人	1,325人	1,173人	90.1%	88.5%
	合併処理浄化槽区域	422人	342人	265人	81.0%	77.5%
	コミュニティプラント区域	264人	264人	264人	100.0%	100.0%
	計	9,856人	7,511人	4,848人	76.2%	64.5%

## ～下水道使用料について～

下水道マスコットキャラクター「スイスイ」

### ①上水道のみ使用の場合

上水道使用量を汚水の排出水量とみなして下水道使用料を算出します。

◆使用水量が10<sup>3</sup>m<sup>3</sup>まで1,260円、10<sup>3</sup>m<sup>3</sup>以上は1<sup>3</sup>m<sup>3</sup>増す毎に84円加算となります。

### ②地下水のみ使用の場合

使用する世帯人員に応じて下水道使用料を算定します。

◆世帯人員3人目までは1人あたり8<sup>3</sup>m<sup>3</sup>、世帯人員4人目以降は1人あたり4<sup>3</sup>m<sup>3</sup>を、下水道に排出する水量として認定し算出します。

※世帯人員は、使用月の15日の住民基本台帳にある世帯人員の数を適用します。

### ③上水道と地下水の併用の場合

◆上水道の使用水量に②の地下水の認定水量の2分の1を加算した水量を排出量とみなして計算します。

ただし、上記の水量(上水+地下水の認定水量)が、その世帯人員を基に②の地下水の認定水量に満たない場合は、②の地下水の認定水量で使用料を算出します。



## ～処理区域になったら～

下水道等の整備により、処理区域になったら、家庭からの雑排水等を下水道に接続するために必要な排水設備を設置してください。排水設備工事は一定水準以上の技術を持った排水設備責任技術者を置いた「指定工事店」で工事を行ってください。



# 農業講座

# しまなみ農業だより はくさいの栽培ポイント

はくさいは96%が水分ですが、食物繊維やカリウム、カルシウム、鉄、ビタミンCを含んでいます。生育適温は15～20℃と冷涼な気温を好みますが、暖地では「秋まき」と「春まき」で栽培ができます。品種の使い分けにより長期に収穫をすることができますが、秋の遅まきは結球不良や春の育苗の保温不足により「とう立ち」します。また、秋の早まき、春の遅まきは気温が高くなると病害や害虫の被害を受けやすくなるので適期の作業が重要です。今回は、はくさいの栽培ポイントについて解説します。

**■栽培作型** 品種の使い分けにより長期間収穫ができます（右図参照）。畑に直接種をまく「直まき」と育苗して畑に植え替える「移植」のどちらでもできます。

低温で花ができるので秋まきでは遅くまでおくと春先の球割れ、春まきではとう立ちして収穫できない時があるのです。

表 はくさいの作型

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	主要品種
秋まき		○△	●									早生種(60日～70日タイプ)
		○△	●									中生種(70日～85日タイプ)
		○△	●									晩生種(85日～100日タイプ)
春まき								(保溫育苗)	○△	●		早生種(60日～70日タイプ)
	○種まき △定植 ●収穫											

**■畑の準備** はくさいの根は細く広く張り、吸肥力が弱いので柔らかな肥えた土での栽培が適します。毎年での悪い畑では、植え付け前の堆肥の施用による土壌改善が必要です。植え付け前の肥料は10日前に苦土石灰を1a(10m×10m)当たり10kg、その数日後に化成肥料15～20kgを均一にまぜておきます。

**■種まき** 移植ではポリポットやセルトレイに排水の良い土を入れ、2～3粒種をまきます。本葉が5～6枚まで育苗して、うね幅60cm、株間40cmに植えつけます。

直まきでは、うね幅60cm、株間40cmに「点まき」にします。ビール瓶の底を使い浅く広い穴を作り、種の間隔をとって3～4粒まきます。種が十分かくれるよう土をかけ、かん水をします。

**■種まき後の管理** 発芽後はヨトウムシやコオロギに食べられないよう注意します。直播では本葉5～6枚までに2回に分けて間引きを行い1本にします。

はくさいは、種をまいて20日～30日の間を順調に生育させることで収穫時の球の大きさが決まります。外葉を大きく育てるために発芽後の株間の中耕・土寄せと併せて少量ずつ2～3回の追肥を行い乾燥させないように注意します。

播種後30～40日頃から葉が立ち始め結球期にはいります。肥料の遅まきは結球を遅らせたり腐敗球が発生するので注意しましょう。



**■収穫** ハクサイの頭部を手で押さえ、固くしまっていれば収穫できます。

目安としては、品種ごとに「○○日」と書いているので収穫時期の目安となります。晩生種では厳寒期に備え12月頃に外葉を紐で球を囲うように縛り防寒をします。

## ■病害虫防除

**【アオムシ、ヨトウムシ類】** 気温の高い時期は幼虫により葉が食べられます。芯を食べられないよう被害が見え始めたら農薬を散布します。ネットで覆うと減農薬栽培が可能です。薬剤は、オルトラン水和剤1000倍、トレボン乳剤1000倍、モスピラン水溶剤1000倍で防除します。

## 【ゴマ症、葉のふち枯れ、葉芯の亀裂(生理障害)】

- ゴマ症：葉の中肋部に黒い斑点ができ、品種・微量要素の欠乏と考えられ地力のある畑で栽培します。
- 葉のふち枯れ：石灰不足により発生。植え付け前に石灰を施用し、土の乾燥に注意します。
- 葉芯の亀裂：ホウ素(微量要素)の欠乏。堆肥の施用を行い、多肥栽培に注意します。